

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力	育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点	
方針・挑戦し続けるたくましさの育成 郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学びを実感できる授業への挑戦 ②地域との協働・地域社会への発信 ③生き生きと働ける学校づくり ④一人ひとりの居場所をつくる	三枝を愛し 志高く 自立する子	考えをもち 対話しながら 創り出す力	アイディアあふれる活動の推進 子どもの発願の願いを大切に授業や	【学びの保障】 ① ① ① ① ② ② ② ② ③ ③ ④ ④	基礎・基本の定着 探究的なプロセスの重視	「授業が楽しい」と感じている児童を増やす。  「授業で『わかった』『できた』と思うことがよくある」と感じている児童を増やす。  「話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできた」と感じている児童を増やす。  基礎・基本の定着 (家庭学習の定着)	B  B  B  B	[第2回児童アンケート よくあてはまると回答した割合] ●授業が楽しい 60% (前年度比-4% 第1回より+3%) ●授業で分かった・できたと思うことがよくある 65% (前年度比-2% 第1回+6%)  ●話し合い活動 41% (前年度比-7% 第1回より+4%だが、半数以下) ●家庭学習 47% (前年度比-6% 第1回より-6%) →後期になって自分の成長を感じ、授業で「学びの手応え」を児童自身が語ることが増えた。反面、学ぶ楽しさを味わうことや家庭学習の定着に課題があり、自律的に学ぶ力を育む必要がある。自分に必要な学習を見つめる時間も取りながら、自分で決めた学習ができるようにICTも活用して、授業改善を行う。	
						児童の願いに基づいた 創造的な活動の推進	「学校が楽しい」と感じている児童を増やす。  「願いをもって、達成できるように努力している」児童を増やす。	A  A	[第2回児童アンケート よくあてはまると回答した割合] ○学校が楽しい 68% (前年度比+2% 第1回より+3%) ○願い・努力 74% (前年度比+3% 第1回より+8%) ●呼びかけ 54% (前年度比-5% 第1回より+2%) ●自分の気持ちを伝えられる 45%(前年度と同様) →「なりたい自分」に向かって努力している様子を年に2回の3者懇談で伝える機会を設けたことで前年度より家庭との連携が図られ、児童の励みにもなった。多様性を認め合うひびきあい活動を日常的な活動とも関連付けながら、自分らしく安心できる居場所づくりをさらに努める。また、児童が工夫する創造的な活動を継続し、よりよいものを創り上げる過程を価値付けていくことに努める。	
						多様性を認め合う活動の 推進	「仲間に呼びかけたり、呼びかけに応えたりできる」児童を増やす。  「相手に自分の気持ちを伝えられる」児童を増やす。	B  B	[第2回児童アンケート よくあてはまると回答した割合] ●地域学習 47% (前年度比-8% 第1回より+2%) ●地域貢献 43% (前年度比-7% 第1回より+7%) →ホテル飼育、委員会の取組、かぶら市の取組など、学びの成果を地域に発信できたことが自信につながっている。さらに学習と地域貢献を関連させ、自分たちにできることを考え合い、自分事としてとらえ、実行できるように工夫改善する。	
						ふるさとを知り、ふるさとの人の想いや生き方に触れて学ぶ。 ・敬老会との交流 ・職場体験 ・ホテルの飼育、かぶら市の開催 ・地域サポーター等との協働的な学び ・まちづくりへの参画	「学校で地域のことを勉強したり、体験したりすることがよくある」と感じている児童を増やす。	B	[第2回児童アンケート よくあてはまると回答した割合] ●地域学習 47% (前年度比-8% 第1回より+2%) ●地域貢献 43% (前年度比-7% 第1回より+7%) →ホテル飼育、委員会の取組、かぶら市の取組など、学びの成果を地域に発信できたことが自信につながっている。さらに学習と地域貢献を関連させ、自分たちにできることを考え合い、自分事としてとらえ、実行できるように工夫改善する。	
						「地域のために自分でやれそうなことで何かをしている」児童を増やす。	B			
						心に寄り添う 教職員	④ 児童の幸せにつながるよう心に寄り添う教職員 ・学び合い、支え合える集団 ・自分自身でタイムマネジメント (健康管理)	「困ったことがあったら、相談できる先生がいる」と感じている児童を増やす。  ・研修主事を中心とした校内研修の充実 ・退校時刻の設定や健康管理等の状況	A  B	[第2回児童アンケート よくあてはまると回答した割合] ○相談体制 53% (前年度比+12% 第1回より+11%) →教育相談週間に限らず、いつでもどの職員にも相談できるような関係づくりを今後も大切にしていこう。 ○学校課題に応じて、計画的に教師自身も学び続ける体制を継続する。 ●タイムマネジメントを職員自ら行うように努める。

学校運営協議会における主な評価内容

・願いをもち達成できるように努力している子が増えていると感じる。また、自分たちの生活から問題点を見つけ、自分たちで解決しようと話し合いながら、考えて活動している自主的な動きがあるのがよい。  
 ・少人数の学校生活では、個を伸ばし、上級生、下級生の関係も築くことができ、とても良い環境になっている。  
 ・伝統をつなぐことも大切かもしれないが、子ども達にとって本当に必要なこと(IT、AI、金融など)を優先させるべきである。